

「御真筆堂」について

(令和4年5月1日、藤原 潔)

ここに祀られている「御真筆」は、日蓮上人の直筆(京都妙顕寺貫主の鑑定)です。100年ほど前の大正7年地域の近藤様宅に日蓮上人の御真筆があることを知った地域の150余名の方々が、もったいないとお堂を建てて地域の方々によるお祭りが始まった。その後昭和5年に一度建て直しをしたが平成10年に現在のお堂が竣工し、地域の方々によるお祭りが続いている。

日蓮上人は、鎌倉時代(今から800年程前)、平安の貴族社会から鎌倉の武家社会への変革期で領地争いが絶えず、加えて火山噴火等自然災害が多く発生し未曾有の困難に見舞われた時代に生き、お釈迦様の教えで住民と社会が幸なれると、教えを広め「今に生きることの大切さを説き」日蓮宗を開いた方です。

またお庭にある「清正公(せいしょうこう)」の像(昭和9年銅製建立、同36年再建)は、加藤清正の像です。加藤清正は、安土桃山時代から江戸時代初期(今から400年程前)にかけての豊臣秀吉の子飼いの深く日蓮宗に帰依する勇猛果敢な武将、大名で熊本城の初代藩主として活躍しました。特に加藤清正は日本国内のみでなく朝鮮出兵の時も戦場で日蓮宗のお題目「南無妙法蓮華經」ののぼり旗を掲げて戦ったと言われている。

なを、境内にある大覚大僧正の石碑は、備前岡山に於ける日蓮宗の伝播と拡大に力を尽くされた大覚大僧正のもので、680年ほど前に旭川河口浜野より岡山に入り、その絶え間ない日蓮宗の伝道が人々の間に浸透し、沖新田の誕生はその大覚大僧正以降350年後ですが、ここに大覚大僧正の石碑があることから大覚大僧正による日蓮宗の教えが引き継がれてきた事をあらわしている。

この様に日蓮宗の開祖日蓮上人の御真筆を祀る御真筆堂の庭に、日蓮宗の熱心な信者であり強力な庇護者であった加藤清正の槍を携えた像や、備前岡山での日蓮宗の伝道者である大覚大僧正の石碑が祀られている。